

AUTOBACS
GPR
KARTING SERIES
2023

2023年AUTOBACS GPR KARTING SERIES Rd.5/Rd.6

開催場所：モビリティリゾートもてぎ 北ショートコース

開催日：7月29～30日

●天候：晴れ ●路面状況：ドライ

●参加台数：OK 24台 / Junior 14台 / Cadets 16台 / Shifter 12台

2023年オートバックスGPR KARTINGシリーズ第5戦／6戦が、7月29～30日の2日間、栃木県・モビリティリゾートもてぎ北ショートコースで開催された。

関東地方の梅雨明けから1週間。北関東のもてぎは連日の猛暑日となり、今回のレースウィークも厳しい暑さの中での戦いとなった。

[OK Rd.5] 鈴木斗輝哉が独走で優勝！



■鈴木斗輝哉/優勝ドライバーコメント

レースウィークに入ってから流れもよく、もてぎなので落とすわけにはいかなかったのが勝ててよかったです。午後もこの調子で連勝したいです。

朝のタイムトライアル、A組ではもてぎを得意としている鈴木斗輝哉がトップタイムをマーク。鈴木悠太、三村壮太郎、野澤勇翔までがスーパーポールに進出する。

続くB組では加納康雅、金子修、中井陽斗、皆木駿輔がスーパーポールへと進出する。

6分間のスーパーポールでは、鈴木斗輝哉がトップタイムをマークする。

第5戦決勝。好スタートを見せたのはPPの鈴木斗輝哉。2番手に加納、3番手皆木と続く。トップの鈴木斗輝哉は序盤から快調にペースを上げ、加納らを引き離していく。後方の2番手グループでもポジション争いもおこらず、レースは静かな展開で進んでいく。

鈴木斗輝哉は、レースの折返しとなる12周終了時点で3秒以上のリードとし、完全な独走体制で周回を重ねていく。後半に入ると2番手の加納の後方に皆木、三村らが接近。特に皆木と三村はテールtoノーズとなり、ポジション変動もあるかと思われた。

鈴木斗輝哉は最後までペースを緩めることなく快走。終盤に入ってもリードを広げる走り、待望のGPR初優勝を獲得。2位加納も初の表彰台、3位皆木はGPRデビューを表彰台獲得で飾った。

[Cadets Rd.5] 松尾柊磨、ホームもてぎで初優勝！



■松尾柊磨/優勝ドライバーコメント

瑞浪のようにバトルになるかと思っていたのですが、逃げられて良かったです。2連勝してスポンサーやチームの人など、いろいろな人にお礼が言えるようにがんばります。

カデットクラスの参加は16台。これまで3勝している森谷永翔が勢いのままもてぎも制するか。誰がストップをかけるのかに注目が集まる。

タイムトライアルではもてぎをホームコースとする松尾柊磨がトップタイム。

森谷が2番手で続く。

決勝でも松尾が快走を見せる。もてぎ選手権で昨年夏以降負け無しの松尾は、まさにホームの利を活かすようにトップをキープ。2番手には中野貴介、森谷と続くが付け入るスキを与えない。

レースが進んでいっても、松尾は約1秒のリードをキープして周回。10周目には森谷が2番手に上がってくるが、松尾との差を縮めることはできない。

最後までリードを守りきった松尾は、地元もてぎで念願のGPR初優勝2位に森谷、3位に中野が入った

title sponsor



series sponsors



series partners



[Junior Rd.5] 関口瞬が抜け出し2勝目を獲得！



■関口瞬/優勝ドライバーコメント

今回はペースがそれほど良くなかったですが、展開に恵まれました。午後はスタート位置がそれほど良くないと思うので、どれだけ上がってこられるかだと思います。

今回のジュニアクラスには14台が参加。タイムトライアルでは、関口瞬が最後にトップタイムをマーク。2番手に澤田龍征、3番手には地元の松尾瀬那が続く。

第5戦決勝。ローリングラップへのスタートで3番手松尾のエンジンがかからずピットへ戻される。その後エンジンが始動しコースインしたものの、松尾は最後尾からのスタートとなった。

スタートは関口、2番手には坂野太弦、3番手に元田心絆と続き、2番手スタートだった澤田は4番手でオープニングラップを終える。

トップの関口が快調にラップを重ねる一方、後方からは最後尾スタートとなっていた松尾が追い上げを開始。5周目終了時に7番手まで上げてくる。また、2番手争いでは9周目の最終セクションで元田が2番手に上がってくる。その後、澤田も元田を攻略し2番手に浮上。しかし、その間に関口が逃げ、関口と2番手との間隔は約2秒となる。

レースが後半に入ると、元田が澤田を振り切り単独2番手となるものの、そこに迫ってきたのが松尾。澤田をかわずと、一気に元田との間隔も縮め、17周目に逆転。しかし、関口を追えるだけの周回は残ってなく、関口が今季2勝目を獲得。松尾が2位、3位に元田と続いた。

[Shifter Rd.5] 松下信治が正真正銘の優勝！



■松下信治/優勝ドライバーコメント

スタートだけがポイントだったと思っていました。いいレースでした。

シフターには12台が参加。今回もフォーミュラドライバーの松下信治は継続参戦。さらにケイ・コッツォーリもスポット参戦してきた。

タイムトライアルでは松下がトップタイムをマーク。2番手に丸山陽平が続く。スタンディングスタートで、その成否が大きなウェイトを占めるシフタークラス。注目のスタートではほぼ全車がきれいなスタートを見せ、松下がホールショットを獲得。2番手に丸山が続き、やや離れた3番手に東拓志、豊島里空斗、安堂祐と続く。

松下と丸山は接近戦のまま周回を重ねていくが、仕掛けられる距離までには縮まらず、一定間隔を保って周回を重ねていく。ワンミスでチャンスが訪れるような僅差でのレースが続くが、さすがの松下はミスすることなく安定してラップを刻んでいく。

両者の間隔は一定のまま終盤へ。丸山も時折接近するかに見えるものの、飛び込める距離には近づけない。そのままトップを守った松下が、前回の瑞浪大会から3ヒート連続でのトップチェッカーを記録。瑞浪ではペナルティ等もあり勝利を逃したが、今回は正真正銘の優勝を飾った。

[OK Rd.6] 鈴木斗輝哉が連勝でもてぎ完全V！



■鈴木斗輝哉/優勝ドライバーコメント

いいレースができてよかったです。もてぎで2連勝できたことは後半戦へ向け自信にもなりました。

第6戦のグリッドは第5戦決勝でのベストタイム順だが、ここでも鈴木斗輝哉がポールを獲得。2番手に鈴木悠太、3番手に金子修、4番手に三村と続く。

スタートでは鈴木悠太が好ダッシュを見せると、アウトから鈴木斗輝哉をかわしホールショットを獲得する。その後鈴木悠太が6周終了までトップを守ったものの、ペースに勝る鈴木斗輝哉が7周目にトップを奪い、その勢いのまま集団から抜け出していく。2番手は鈴木悠太が守るものの、鈴木斗輝哉はレースの中間点でリードを2秒以上にまで広げ独走。2番手鈴木悠太の後方には金子、三村らが接近し、終盤に金子が2番手に浮上。さらに三村、吉田馨も鈴木悠太を交わしていく。

その間にも、トップ鈴木斗輝哉は後続を上回るペースで周回を重ね、リードは3秒以上にまで広がっていく。最終ラップに入ると、さすがにペースは落としたものの、それでも3秒半のリードを保って2連勝。2位に金子が入る。3番手チェッカーの三村にはフェアリングペナルティがあり、吉田が鈴鹿大会以来の表彰台を獲得した。

title sponsor



series sponsors



series partners



[Cadets Rd.6] 松尾柊磨、幻のトップチェッカー。優勝は森谷永翔!



■森谷永翔/優勝ドライバーコメント

勝負して勝ちたかったですが、結果として優勝できたことは良かったです。次回の瑞浪、最終戦のAPGも勝ってチャンピオンになります!

第6戦決勝は森谷がPP、松尾が2番手からのスタートとなる。しかし、ホールショットは松尾が獲得すると、序盤から森谷を引き離していき、単独走行へ。森谷も3番手以下は引き離し単独走行。やや離れた3番手には横山輝翔が続く。

松尾は、10周すぎにはリードを2秒にまで広げ、第5戦同様に独走。そのままトップを走った松尾が、第5戦に続くトップチェッカーを受ける。

しかし、レース後の審議で、松尾はジャンプスタートのペナルティとなり、レースタイムに3秒が加算される。この結果、わずか0.89秒差で森谷が上回り、繰り上がりで森谷が4勝目を獲得し、チャンピオンに向け大きく近づくこととなった。

[Junior Rd.6] 松尾瀬那が嬉しい初優勝!



■松尾瀬那/優勝ドライバーコメント

後ろが近づいてきて、さされるかと思っていましたが、さされてもその後しっかりと対処できたのは良かったです。もてぎでもGPRでも初優勝なので嬉しいです。

第6戦グリッドには小高一斗がサポートする松尾瀬那、須藤虹富がフロントローに並ぶ。第5戦で優勝した関口は、2列目4番手からのスタートとなる。

スタートでは松尾がトップをキープ。3番手スタートの元田が2番手に上がると、2周目にはトップ浮上。しかし、松尾もすぐに抜き返し、ポジションを譲らない。

両者は接近戦を展開しながら3番低下を引き離していき、マッチレースへと持ち込んでいく。3番手には須藤、その後方に関口、松井沙麗と続くが、なかなかトップ2を追うことができない。

マッチレースとなっても、松尾はトップをキープ。徐々に元田も引き離していくと、そのままトップを守ってチェッカー。嬉しいGPR初優勝を飾った。2位に元田、3位関口と第5戦と同じメンバーが表彰台上に登壇した。

[Shifter Rd.6] スタートダッシュを決めた丸山陽平が2勝目を獲得!



■丸山陽平/優勝ドライバーコメント

自分のペースが作れてからは、ロスの少ない走りを心がけて逃げられて良かったです。

シフタークラス第6戦もPP松下、2nd丸山とフロントローは同じ顔ぶれ。しかし、今回はスタートの加速で上回った丸山が、1コーナーで松下を抑え込みホールショットを獲得。オープニングラップでは、要所でインを締めブロックし、オープニングラップをトップで戻ってくる。丸山、松下の後方には豊島が続く、今季優勝経験者3人によるトップバトルとなる。

トップ丸山の後方で松下と豊島のバトルが始まると、丸山が若干のリードを獲得。豊島、松下が数度に渡りポジションチェンジする間に、丸山のリードは約2秒にまで広がっていた。

終盤、豊島と松下とのバトルは豊島が2番手を盤石のもとで決着。上位3台はそれぞれが単独走となり、1回もトップを譲らなかった丸山が、鈴鹿大会以来となる2勝目を獲得。2位に豊島、3位に松下と続いた。

title sponsor



series sponsors



series partners

